

茶病害虫防除情報

【第 17 号】

令和 2 年 10 月 2 日
鹿児島県経済連・肥料農薬課

年により発生する 秋整枝後の輪斑病防除対策

秋芽生育期の 8 月は猛暑の天候が続き、後半は台風や秋雨前線の影響で、雨天日が多くなりましたが、秋芽の生育・充実概ね良好のようです。秋整枝(秋番茶収穫)が始まりますが、今後秋の気温も高くなる恐れがあります。今回は高温時に発生しやすい輪斑病の秋整枝後防除対策についてお知らせします。

☆ 秋整枝後の輪斑病発生について

輪斑病は「やぶきた」園で、主に二・三番茶の摘採後に発生しますが、最近では秋整枝後にも年によっては発生がみられ、充実した秋芽の成葉を痛め、一番茶への影響も懸念されます。輪斑病菌は高温を好みますので、秋整枝時の気温が高く、雨が降ると発生が多くなります。また、輪斑病菌は硬化した成葉でも整枝による切口などの傷口から感染し、発病します。今年これから秋整枝時期 10 月の気温、降雨とも平年並みの気象予報となっており、このため秋整枝後に輪斑病発生の恐れがあります。感染源となる輪斑病葉の多い園、新梢枯死症発生が多くみられる園については注意し、防除対策をすすめてください。

☆ 秋整枝後の輪斑病防除対策

輪斑病菌は秋整枝による葉や茎の切口から感染し、雨の日や茶園が濡れている状態での作業で感染しやすいので、できるだけ雨天時の整枝作業は避けてください。薬剤防除法は輪斑病防除の基本である整枝後できるだけ早く(3 日以内)行います。防除薬剤でアミスター 20 フロアブル、リア WDG、フリントフロアブル 25 などストロビルリン系薬剤は耐性菌が発生している地域、園があり、効果は期待出来ない恐れがあります。このため、今回は整枝直後散布すると効果があるダコニール 1000、テプロスフロアブル、フロンザイト SC などでの防除をお勧めします。

☆ 秋整枝後の輪斑病薬剤防除法

防除時期	防除薬剤	使用濃度	使用時期・回数	注意事項
秋整枝 3 日後まで	アミスター 20 フロアブル	2000 倍	14 日前 3 回	1、アミスター 20 フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フリントフロアブル 25 はストロビルリン系薬剤耐性菌発生園では使用しない。
	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000 倍	7 日前 1 回	
	カスシホルトー	1000 倍	30 日前 1 回	
	テプロスフロアブル	1000-2000 倍	14 日前 2 回	
	ニマイバー水和剤	1000-1500 倍	14 日前 1 回	
秋整枝直後	ダコニール 1000	700-1000 倍	10 日前 1 回	
	フロンザイト SC	2000 倍	14 日前 1 回	

秋整枝後発生する輪斑病 (秋整枝時の気温が高く、雨天や濡れた園での整枝作業で感染)



秋整枝後発生の輪斑病



輪斑病菌分生子

台風 10 号の暴風雨により発生がみられる斑点細菌病について

9月6-7日に襲来した台風10号による暴風雨による茶園への被害は比較的少なく、幸いでした。先般からの南薩地域などにおける台風後調査で、新病害の斑点細菌病の発生が確認されましたので、状況、対応などお知らせします。

発生状況

発生は南薩地域などを中心に県内各地の地域で見られています。主に暴風雨の当たる茶園周辺部や南東側にみられ、徒長枝などに多いようです。台風の1週間後頃から発生しています。品種では「ゆたかみどり」「あさつゆ」などに多いようでした。

病徴

症状は、最初葉脈間や中肋、葉柄部に水浸状の濃緑色の小斑点を生じ、その後拡大し、暗褐色円形または不正形、数mmの斑点を形成します（写真）。やや成熟した葉に多いです。

病原菌

富濱氏らの研究では、過去に2003年、2004年の台風襲来後にも発生が確認されている細菌による病害です。病原細菌は茶園や周辺に普遍的に存在するが、病原性は弱く、通常は発生することはなく、台風などによる防風雨で、茶葉に傷が生じた時に発生するようです。このため発生園でも今後発生が広がる恐れはありません。

防除対策

今後通常の気象条件などでは発生被害が拡大する恐れはありませんので、薬剤防除等は必要ありません。しかし、これからも更に台風襲来がある場合は、台風の直前、直後などに赤焼病防除に準じカシホルダー、銅水和剤などの薬剤散布が有効と思われます。

なお、現在発病している秋芽の枝梢、葉は秋整枝で殆ど除去されるため影響は少ないと思われます。



斑点細菌病 病斑

斑点細菌病 発生状況

今年台風後の発生状況

(写真 富濱氏原図)